





るための智慧を伝え続けるものでし それはまさに寿命を全うするその日ま 絶え間なく布教の旅を続けられました。 で救いをもとめるものに対して、生き ての寿命を全うされた日です。 二月十五日はお釈迦さまが人間とし お釈迦さまはお悟りを開かれたのち、

進」というお言葉がございます。 すらにホトケの行いを務めていくこと その最後のお示しの中の一つに ひた 精

ように行動されるのか? 在り方を思い起こし、 毎日の中、 に感じることばかりです。そのような 悩まされ、葛藤から逃れることは困難 自答を常に忘れないのが精進です。 私たちの日常は雑念や妄想によって わずかな時間でもホトケの ホトケならどの そんな自問 b

> 着けないところがあるのです。 えるゆっくりとした歩みでしかたどり と簡単なほうへの魅惑に負けそうなこ ともあります。しかし、一見地味に見 っと他に楽な生き方があるのでは?

く石を穿つが如し」 「譬えば小水の常に流れて、 則ち 能

です。 ない隙間にも染み渡り、絶え間なく行 ありません。水のようにどんなに見え いを続けていくことが「精進」 な行いを続けてゆくこと以外の近道は 自分の行いを常に内省し、心穏やか の教え

平寺に上がってきます。彼らは精進 るのです。 ら自身がその奥深さの一部となって 季節が廻り、また春が来るころには彼 奥深さを見ることでしょう。 春がやってくると新しい修行僧 かし、 が永





年も大祖堂で行われます。 春の訪れを告げる「節分追儺式」 寒中の時期を過ぎると、二月三日には 年で最も寒さの厳し K 5 わ が本 ゆる

変更いたします。 を防ぐため、今回はその内容を大幅に ただし、 新型コロナウイル ス 0) 感染

すが 女、 とても大切な「涅槃月」です。 また、二月は私たち仏教徒にとって 事前に御祈祷の申込を受け付けま 山内のみで御祈祷法要を行います。 般参拝者の入場をご遠慮い 当日 は有名人ゲストや福 ただ 男福

ました。 總持寺では、 日から大祖堂東序の

の下で、二月十五日にお涅槃に入られ

お釈迦さまは、八十歳を一期として

で『 室中に巨大な涅槃図を掲げ、 を慕い、一 ます。そしてお釈迦さまの広大な慈恩 弘山遺教経』と『舎利礼文』を誦ぶつゆいますのぎょう 層の精進を誓うのです。 毎日晩 4

仏殿で行われます。心が行われ、十五日にかけては、お涅槃 かけては、お涅槃を追慕する報恩摂 二月十二日 十五日には涅槃会法要が (金) から十四日 (日)

かつて与謝野晶子さんが仏 胸なりて われ踏みがたし

氷よりすめる

寂で厳粛な雰囲気に包まれます。 と詠った如く、この日はひときわ静 大雄宝殿 の床

上山が始まります。
涅槃会が終わると修行僧の下山や 行道場の風景といえましょう。 世 間 より早めに新旧 が交代する修

選、坊城 俊樹

自画像の後ろはいつも隙間風

秋田県 1)2 田嶋 恭葉

評 自画像というものはとかく切ないものであ がかつての自身の背中を撫でて去って行く。 う。それを見る現在の気持ちを表わしている 月を経ることで深い哀愁を帯びるものと思 が ことに若いころに描いた作品は、その年 「隙間風」なのだと思う。冬の冷たい風

里山の息のやうなる朝の霧

172 春日や社説音読する朝

和歌山県

田﨑 よし子

長野県 森山

昌子

岩手県 阿部 凞子

奈良県 鈴木

重雄

野にひとり暮らしの 猫 子らの声少なくなりし石蕗の花

弟の植ゑし日遥か冬のばら

秋

0

0 吉

釜田

正樹

神奈川県

千葉県

祥子

須見

書斎には秋草

一輪だけの息

山口県 藤野

佳きことのつぎつぎありて冬林檎 祥子

家々の窓に それ でれ 秋燈

岡山県 有元

克英

山口県 粟屋 邦夫

鈴虫や読経へつかずはなれずに

枯れてなほ立往生の菊の形

隆

隠し絵の如く紛れてゐる茸

評

|俳句の技法として「比喩」がある。

何かに喩

岐阜県

大下

雅子

選者吟

えることである。

比喩が陳腐だとあまり面白

北海道

観音の御手に落ちんと木の実落つ

俊 樹

手のひらの中へ落ちたがっているように感じた。俳句は全てのもの る。 の命を諷詠する詩である。仮にそれが小さなものであっても。 作句小見」観音さまが手のひらをやや上に向けて立っていらっしゃ 晩秋ともなると様々な木の実が降る季節。その中の一つがその

背景を様々な草や木の中に隠されているとい

絵画のような森の世界。

喩はそれを「絵」とした。

茸の形や色がその

くないしいわゆる類想句となる。この句の比

選 ・長澤 ちづ

h 空の魚籠下げて釣り人帰りゆきひょうた (池に秋陽やわらか

岡県 商尾 善五

れ以上に心の平安を得たらしい様子が、 収穫はなかった釣りだが釣り人にとって、 感が漂う。 の中でも釣り針の緊張感から解放された安堵 の柔らかな陽ざしから想像される。一方、 「ひょうたん池」の名前が物語へと 結句 池 そ

誘う。

孫他へ愛 への封書ほの脹らみぬ なき暮らしをスケッチに描き足して 岩手県 宍戸 さとる

評 にいろいろ想像させる。 描き足したものの具体はないのだけれど読者 である。その感覚に惹かれた。 実にかさ張るわけはなく、 描き足して封書が現 そんな気がしたの

> 駅舎 なきホ 1 ムに最終列車待つ刻 々積もる雪被りつ

秋田県 小田嶋

この夏はふくろふ鳴きみし大けやき枝もあらはに冬日あびみる 広島県 徳永 進一郎

ボールペンのインク無くなるわたくしの心のおもむくままにはたらき

福岡県

三吉

孤独の先に自由があったと語る人九十一歳春の坂道

東京都 鈴木

か け つこのテープを切りし喜びを繰り返し言ひ子の今日終る 正

「迷子のインコ探しています」と新聞の今朝のチラシに鸚哥の写真 三重県 藤川 幸子

• 冬近き畑へをみな一人来て乾きし草を焼き始めたり 東京都

• 爪 、まわり柿の渋が染み着いたわが老いの手をいとしく撫でる 後藤

枯萱に隠されるしか思ひ草ひそけく咲くに触れず離り来 秋田県 小松

静岡県 杉原

彼岸花優しい姉の笑みに似て色なき風にそよぐ秋の 回

大阪府 谷口 智佳子

選者詠 彷徨いぬ。宇宙の駅に着きし頃われは最寄りの

駅

が捉えた雪の存在感。「インコ、 づく谷口さん作。いずれも対象をよく見ている。 立たせる長谷川さん作。 作歌小見」雪国の冬の困難さを重厚に伝える小田嶋さん作。 彼岸花の色が強烈なので風に色がないと気 鸚哥」の繰返しが、 その姿を鮮明に 生活者

長谷川

朣